

氏名	田 村 敬 博
学 位 の 種 類	医 学 博 士
学位授与番号	乙 第 1 1 5 6 号
学位授与の日付	昭和 55 年 12 月 31 日
学位授与の要件	博士の学位論文提出者 (学位規則第 5 条第 2 項)
学位論文題目	Conglutinin Solid-phase Radioimmunoassay による血中 immune complex の検出 第 1 編 基礎的検討 第 2 編 臨床的検討 — 全身性エリテマトーデスを中心に
論文審査委員	教授 木村 郁郎 教授 長島 秀夫 教授 野原 望

学 位 論 文 内 容 の 要 旨

本研究は、各種膠原病の中で、全身性エリテマトーデス（SLE）において、血中に soluble immune complex (IC) が存在すること、および conglutinin 結合能によって検出される IC は多彩であって急性増悪に病因的役割を果すものと果たさないもの等が存在することを示したものである。

まず第一編で、conglutinin 結合能が、補体を有する IC をのみ、抗原過剰域および抗体過剰域とで検出可能なことを示した。

第二編では、conglutinin 結合能は、IC の抗体の性質とは特異的な関係がないこと、補体依存性の検出法であるため低補体の血清中の IC の検出率が低いことが示された。ついで SLE 血清での conglutinin 結合能は、正常人に比し有意の高値を示し、C₁q 結合能、ds-DMA 抗体値、CH50 と相関関係を示したが、臨床的腎症との相関は認めなかった。その検出率は 33% で、他の IC 検出法である C₁q 結合能で同時に検出する場合は、SLE 血中に IC が存在することを強く示唆するものと考えられた合臨床像との関係では、急性期に一致して高値を呈し、病態変化と共に示す症例が存在する一方で特に臨床症状を有せず数カ月以上にわたって高値を呈す症例が存在した。以上のことから SLE 血中の IC は多彩であって、急性増悪に何らかの役割を果す IC と同時に、病因的役割を有しない IC も存在することが考えられた。

論 文 審 査 の 結 果 の 要 旨

本研究は血中 Immune complex について Conglutinin Solid-phase Radioimmuno-

assayを用いた測定方法及び臨床的にこれを研究したものであるが、従来十分確立されていなかった Immune complex の測定法に関し特にその特異性について重要な知見を与えたものとして価値ある業績であると認める。

よって、本研究者は医学博士の学位をうる資格があると認める。